

平成25年9月 岡山市教育委員会定例会 会議録

1 開催日	平成25年9月24日 (火)		
2 開会及び閉会	開会	14時02分	
	閉会	14時54分	
3 出席委員	委員長	塩田澄子	
	委員	曾田佳代子	
	委員	渡辺勝志	
	委員	東條光彦	
	委員(教育長)	山脇健	
4 会議出席者			
職名	氏名	職名	氏名
教育次長	橋本拓治	教育次長	渡辺和夫
統括審議監	佐々木辰昭	審議監(学校教育担当)	天野和弘
審議監(生涯学習担当)	直本正明	教育企画総務課長	長瀬尚樹
学事課長	三宅泰司	指導課人権教育担当課長	梅原信芳
生涯学習課長	丸川康一	文化財副専門監	草原孝典
子ども企画総務課次世代育成担当課長	逢澤正男		
事務局(教育企画総務課課長補佐)	高木宏	事務局(教育企画総務課主任)	宗田朋子
5 議題及び結果			
6 教育長等の報告 [平成25年8月10日(土)～平成25年9月13日(金)]			
8/10～8/11	イングリッシュビレッジ事業	子ども企画総務課	
8/14～8/15	犬島サマーフェスティバル	生涯学習課	
8/17～8/23	チャレンジハート・キャンプ	子ども企画総務課	
8/17	埋蔵文化財講座「夏休み子ども考古学講座(勾玉づくり)」	文化財課	
8/18	全国公立ジュニアオーケストラ・フェスティバル in NIIGATA	子ども企画総務課	
8/25	岡山市ジュニアオーケストラ第49回定期演奏会	子ども企画総務課	
8/26～8/28	犬島探険隊報告展	子ども企画総務課	
8/28	P T A 人権問題研修講座	指導課	
8/31	親子環境学習サマースクール②	生涯学習課	

<p>9/2 9/8</p>	<p>岡山市社会教育委員会議 家族ふれあいフェスティバル</p>	<p>生涯学習課 生涯学習課</p>
<p>生涯学習課長</p>	<p>○ 家庭教育向上に向けての方策についての提言案について説明する。</p> <p>社会教育委員会議では、平成15年に家庭教育の向上のために、これからの家庭教育の在り方と家庭教育を支援するための方策について教育委員会へ提言している。その提言から10年経っているが、家庭の教育力が低下している状況に変わらない。そこで、どこに問題があるのかを社会教育委員会議として検証し、今後の家庭教育の向上に向けて2年かけて議論したものを提言として今月中にはとりまとめる予定だ。</p> <p>内容について説明する。「はじめに」のところには、先ほど説明した経緯等について記載している。</p> <p>19ページには、家庭教育の現状について、保護者にアンケート調査を行ったり、家庭教育を取り巻く地域、学校、NPOからの意見も含めたりして記載している。</p> <p>社会教育委員会議として着目した点、現状をまとめたものを20ページに記載している。現状として、家庭や地域でのコミュニケーション不足が家庭教育に影響しており、コミュニケーションが重点的に育まれる必要があること、それと、大人が子どものやりたい気持ちを阻止し、自己肯定感を阻害していることもあり、挑戦する前からあきらめる子どもが多いということで、社会教育委員会議では「コミュニケーション不足」と「自己肯定感」に特に着目している。核家族化するとともに地域との繋がりが希薄化し、保護者や祖父母・隣近所などから子育てについて学ぶ機会が少なくなり、保護者だけで子育てを行わなければならない状況がさらに進展している状況にあり、相談相手が身近にいない家庭を地域社会などがどう支援するかが重要と考え、保護者自身が学ぶ機会が少ないという点と、保護者が相談する相手が身近にいないという点に着目している。</p> <p>こうした現状から、20ページ、家庭の教育力向上に向けての課題として、家庭教育の主体として保護者自身が家庭教育を自分の家庭の現状にあった方法で率先して行うこと、保護者が頑張ってもできないことは、地域や学校、企業など社会全体が支える役割を十分に果たさなければいけないという2点に課題があると考えている。</p> <p>こうした課題を解決していく方策として、22ページからは、家庭で育みたいものとして「コミュニケーション力」と「自己肯定感」の2点に焦点化し、これらを育むためには、「あいさつをする」「子どもに役割を持たせる」「地域行事や体験活動に参加する」、この3つを基本的で身近でだれでも行いやすく、ぜひとも行ってほしいもの、重要なものとして考えている。あいさつはコミュニケーションの基本となるもの。子どもに役割を持たせることは自己肯定感やコミュニケーションを高めるために重要である。また、家族で地域行事や体験活動に参加するということは、触れ合いとか様々な体験もできるので、子どもの自立心や自己肯定感を高めるために効果的である。</p> <p>それぞれの項目についての必要性、重要性、注意点を24～27ページでそれぞれ具体的にあげている。</p> <p>28～29ページでは、相談相手がいない保護者が見られるという現状があり、家庭の教育力の向上のためには、家庭をとりまく周囲の方の支援が必要だが、その支援が今は十分でないところもあるので、保護者自身が意識を高めるための支援（教育的機能の充実）と相談する相手のいない保護者などの相談を速やかに周囲が受けるようにするための支援（相談体制の充実）の必要性を</p>	

記載している。

そうした必要性や重要性・注意点等を29～41ページに記載している。地域、学校園、社会教育施設や、社会教育関係団体・NPO、企業、行政に分け、それぞれ具体的な点を記載している。

平成15年の提言と比べ、実行しやすいものに焦点化して、実行する際の視点や方法を具体的に提案しようと社会教育委員会議では考えている。

今後、最終的なとりまとめを行い、10月に提言として報告したい。

この内容については、先日、市民文教委員会へも報告した。市民文教委員会では、内容について教育委員会としても具体的できることはスピード感をもってやっていただきたい。保護者自身が気づいたり勉強したり、意欲を持ってやりやすいようなコンパクトなまとめたものを配るなり、教育委員会としてすぐにできることはやって実行してほしいという意見があった。また、コミュニケーション力という言葉がわかりにくいということで、「思いを伝える力」や「会話をする力」など、イメージがわきやすいような表現にしたかどうかという議論もあった。

委員長
東條委員

- 意見はあるか。
- 文章標記の問題だが、19ページの家庭教育の現状の記載の一番下、「大人が子どものやりたい気持ちを阻害し、自己肯定感を阻害していることもある」というのは文章として変なのではないか。自己肯定感の「向上」や「形成」という言葉の方が正しいのではないか。

また、巻末に参考として記載している相談窓口について、既に色々ところで紹介されている機関ではあるが、連絡先が記載されていないので電話番号を載せてはどうか。

生涯学習課長
東條委員

- 社会教育委員会議の中でお願いしようと思う。
- 現状の確認だが、例えば、「岡山」・「子育て」のキーワードでインターネットを検索すると、どういうページがあがってくるか。スマホやタブレット端末で検索したときに、こうした機関が出てこない、紙媒体のものはすぐ手元になり、わからない。ウェブは、窓口が活用される一つのポイントだと思うが、そうした工夫は考えているのか。

生涯学習課長

- 社会教育委員会議として提言するもの、これに基づいて行政として対応が必要なものは改良を行い、市民の方が見やすくなるような工夫をしたい。

教育長

審議監（生涯学習担当）

- 現状はどうか。検索したらこういうものが出てくるのか。
- 語句の設定の仕方を工夫するなど、事務局で努力する。

今、ネットで検索して出てくるのが、子ども総合相談所、無料法律相談、地域子どもセンター、岡山市相談窓口一覧表、岡山県のページで司法書士協会の無料相談会、離婚相談所、精神保健福祉相談などだ。検索されやすいように工夫したい。

東條委員

- 県の総合相談センターというのが、北区南方にある。その中に、すこやか育児テレフォンだったか、子育て系の電話ホットラインがあるが、県でやっているものでも、よく利用されているようなものは一覧表に掲載しても良いのではないか。

委員長

- せっかく個別の相談所が掲載されているので、下に連絡先を記載した方が良い。

曾田委員

生涯学習課長

- この提言書は若い人も読む場合がある。どこに配るのか。
- 社会教育施設や、子ども会などの関係団体、NPOなど、家庭教育を支える立場の機関へ配付し、保護者には、リーフレットなどにして家庭教育の注意点などわかりやすくしたものを渡すことを考えている。学校やPTAなどにも配付する予定なので、保護者の目に触れないわけではない。

<p>曾田委員</p>	<p>○ 連絡先について、ホームページアドレスを記載しておく、子育て世代には良いのではないかと。</p> <p>平成15年の提言とこの提言の大きな違いは何か。</p>
<p>生涯学習課長</p>	<p>○ 平成15年の提言を冊子の68～69ページに掲載している。色々な項目をとりあげているが、全てはできない。今回は、具体的に最低限のものを示し、家庭にも学校や周囲にも取り組みやすいような提言として考えている。</p>
<p>曾田委員</p>	<p>○ 10年経って世の中が変わっている。気になったのは、社会の状況や現状の変化の中に、ネット社会のことが全く記載されていないことだ。家庭教育の中で、今、保護者や学校が困っていることとして挙げられており、場合によっては犯罪につながることもある。家庭教育の中にそういう視点や環境についての記載があればと思った。</p>
<p>生涯学習課長</p>	<p>平成15年の提言が功を奏していると思うのは、キーワードが生きていたということ。「子どもが愛されていると実感できる」というフレーズがあちこちに広がったことが、全国学力学習状況調査における岡山市の子ども達の自尊感情・自己肯定感の高さにつながっているのではないかと思う。</p> <p>提言というのは、PDCAサイクルにのせないのか。提言そのものが機能したかどうかの検証はあったのか。</p>
<p>生涯学習課長</p>	<p>○ 平成15年の提言については、提言された内容が実行されているかどうか十分検証できておらず、社会教育委員会議として改めてより具体的に提案しようということ考えた。</p>
<p>曾田委員</p>	<p>○ あまり網羅的に全部入れるとできない可能性もある。前回の「愛されていると実感できる」というフレーズに替わるフレーズがこの中にあるのか。社会教育委員の方々が提言し、岡山市の子育て関係の人達に配付するものとしては、コミュニケーション能力が大事です、などということも大切だが、例えば、「アフリカの子育ては、村中の人の知恵と愛・力が必要です」という良く使われるフレーズのように、「岡山の子どもたちを育てるのは〇〇です」というものがあるって提言となるのではないかと思う。</p>
<p>生涯学習課長</p>	<p>もう1点、15年度の提言と違うなら、巻末には岡山っ子育て条例を入れた方が良いのではないかと。前回の提言の状況との違いは条例があるかないかだ。あの条例があることで家庭・学校園・地域社会・事業者の4者の責務が努力義務とは言いながら明記された。子育てが家庭の中だけでは行き詰まるということが皆に認識されている。そうした違いを見せる。今のようなネット社会になり、2歳児からスマホで遊ぶような世の中で、今までと同じような哲学的な子育てのあるべき姿だけではあまり変わらないのではないかと。岡山の子どもたちの犯罪や、家庭教育の状況の変化や地域協働も進んでいる中で、10年前との違いを出したら良いのではないかと思った。</p>
<p>生涯学習課長</p>	<p>○ 平成15年の提言から10年経過して、教育に対する学説・考え方が変わった点があるのではないかと感じる。平成15年の提言の中の「子どもが愛されていると実感できる家庭であるために」という項目で、『『全面的に受容する』』ということによって基本的信頼感や自立心を育てる」とある。そうした考え方が一時あったが、現在、必ずしもそれでいいのか、揺り戻しもあるのではないかと感じるが、そうしたことを取り入れながら変えていったようなことがあるか。委員の中で、そうしたことをいくらか考えながら議論していったようなことはないか。</p>
<p>渡辺委員</p>	<p>○ 社会教育委員会議の中では特に議論が出ていない。</p>
<p>生涯学習課長</p>	<p>○ 植物の栽培に例えると、大量に農薬をまいたり、肥料をつぎ込んだりするようではなく、土壌そのものを変えてしっかりしたところから育てていこうという内容だ。昨今の流れで、すぐ点数や順位に結びつけるという傾向があ</p>
<p>生涯学習課長</p>	<p>○ 植物の栽培に例えると、大量に農薬をまいたり、肥料をつぎ込んだりするようではなく、土壌そのものを変えてしっかりしたところから育てていこうという内容だ。昨今の流れで、すぐ点数や順位に結びつけるという傾向があ</p>
<p>渡辺委員</p>	<p>○ 植物の栽培に例えると、大量に農薬をまいたり、肥料をつぎ込んだりするようではなく、土壌そのものを変えてしっかりしたところから育てていこうという内容だ。昨今の流れで、すぐ点数や順位に結びつけるという傾向があ</p>
<p>生涯学習課長</p>	<p>○ 植物の栽培に例えると、大量に農薬をまいたり、肥料をつぎ込んだりするようではなく、土壌そのものを変えてしっかりしたところから育てていこうという内容だ。昨今の流れで、すぐ点数や順位に結びつけるという傾向があ</p>
<p>渡辺委員</p>	<p>○ 植物の栽培に例えると、大量に農薬をまいたり、肥料をつぎ込んだりするようではなく、土壌そのものを変えてしっかりしたところから育てていこうという内容だ。昨今の流れで、すぐ点数や順位に結びつけるという傾向があ</p>
<p>生涯学習課長</p>	<p>○ 植物の栽培に例えると、大量に農薬をまいたり、肥料をつぎ込んだりするようではなく、土壌そのものを変えてしっかりしたところから育てていこうという内容だ。昨今の流れで、すぐ点数や順位に結びつけるという傾向があ</p>

<p>生涯学習課長</p> <p>渡辺委員</p> <p>曾田委員</p>	<p>るが、そういうものではないということ力を強く出せたらよい。根っこから変えて長く続く方策を考えようというのがこの提言の趣旨だと思うので、そういう部分が出たら良いのではないかと思うが難しいか。</p> <p>○ まずは、できていないことをどうすれば今より良くなるかに主眼において議論を重ねているので、根本的なところまで議論が行っていない。</p> <p>○ この提言そのものが根本のところを考えた立派なものだと思うので、それを示せたら良いのではないかと思う。</p> <p>○ 提言を実行するに当たり、行政が作ったプランだけでは前に進まない。どこか1つでも工夫して、岡山の子育てが余裕をもって面白くできたらよいのと思う。</p>
<p>生涯学習課長</p> <p>委員長</p>	<p>○ 提言するだけでなく、社会教育委員会議で、今後、実際にどんなことができるのか、議論していただきたいと思う。</p> <p>○ 1月に教育振興基本計画ができ、家庭、学校、地域、企業が協働して色々やってみようという中で、この提言の位置づけはどうなるのか。振興計画とは全く別か。</p>
<p>生涯学習課長</p> <p>委員長</p>	<p>○ この提言は、社会教育委員会議でまとめたもの。これについて、教育振興基本計画の具体的なプランの中に実行すべきものとして反映させていくなど、今後、教育委員会考えて実行していく必要はある。</p> <p>○ 以前、常任委員会に出席した際に、広報をうまくやれと言われていた。教育広報紙「こらぼ」で広報する。これはこれで広報する。たくさん広報しないといけないが出てきているので、セットにして広報できるような工夫をすればどうか。</p>
<p>生涯学習課長</p> <p>委員長</p>	<p>○ 以前、常任委員会に出席した際に、広報をうまくやれと言われていた。教育広報紙「こらぼ」で広報する。これはこれで広報する。たくさん広報しないといけないが出てきているので、セットにして広報できるような工夫をすればどうか。</p>
<p>教育企画総務課長</p>	<p>○ 提言のところを見ていただきたい。岡山っ子育て成条例について、家庭の行動指針として6つある。「心のあくしゅ あいさつから始めます」「話し合いの時間をもちます」「子どもに一役持たせませす」「さざ波体験 子どもを見守り支えます」「ほめて叱ってまたほめます」「ふれあい、出会い 子どもと一緒に出かけます」。このうち、3つは社会教育委員会議で出てきた内容と全く同じである。岡山っ子育て成条例との関係が書けていないということは確かに弱い。そこを提示した上で、どうするかという協議をすべきであったと思うが、結果として、担っている課題は10年経過しても、同様のものが出てくるというのが改めてわかったので、教育振興基本計画のネットワークを作るという施策のところでもリンクしながらやっていくことが必要であると思った。</p> <p>岡山っ子育て成条例については、推進会議があるので、その会議でこの提言をそれぞれの代表の方に見ていただき、地域として事業者として何ができるのかを考えるというやり方もある。</p> <p>生涯学習課で作ったものを生涯学習課だけで処理するだけでなく、他課と連携しながら推進会議の話題としたり、行動指針と提言との相関を見ていたり、単年度のアクションプランに何をしていくのか盛り込むなど横断的な発想をもってこの提言を受け止める必要があると考えている。</p>
<p>委員長</p>	<p>○ パンフレットを作っても、今の若い人は字を読まないが、メールは絶対読む。メールやメールマガジンをうまく活用する方法はないか。調べてみると、緊急連絡をメールでしているところもあるので、そういうことは全市で協力してやっていかなければいけないことではないかと思う。PTAの講演会なども、チラシは見えていないかも知れないが、メールで配信されたら参加するのではないか。</p>
<p>東條委員</p>	<p>○ 教育委員会でフェイスブックページを作るということは考えていないのか。紙媒体は部数などの限界もあり、すぐに見てもらおうという点では弱い。広報に関する指摘があるのであれば、フェイスブックなどSNSでの情報提供も検討</p>

	<p>してはどうか。市のホームページを見ても、こうした情報があちらこちらに分散していてわかりにくい。QRコード化して一括してリンクさせればよいのではないかと思う。技術的な問題なので関係ないかもしれないが、広報の仕方は色々工夫の余地があるのではないかと思う。</p> <p>大学でもフェイスブックのページを作ると多くの人が閲覧している。思ったことを何でもコメントしているが、中には役に立つこともある。パブリックコメントを行うのは手間がかかるし、単発でしかとれないが、逐次コメントが入ってくることを考えると、使い勝手が良いのではないかと思うので、検討してほしい。</p>
<p>委員長 渡辺委員 次世代育成担当課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ その他の事業報告。質問はあるか。 ○ イングリッシュビレッジは毎年、圧倒的に女子が多いが、なぜか。 ○ 応募の状況から圧倒的に女の子が多い。女子だけ募集しているわけではなく、各学校を通じて募集しているが、なぜ女子が多い分析はできていない。
<p>委員長 次世代育成担当課長 渡辺委員 東條委員 教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 応募は何人だったのか。 ○ 80人ぐらいだ。そのうち、男子が20名程度。 ○ 女子の方が、将来、外国への留学希望を強くもっているのだろうか。 ○ 大学の留学プログラムへのエントリーも女子学生が圧倒的に多い。 ○ イングリッシュビレッジに応募している子どもは、保護者とともに、元々関心が強い。英語を習いに行っているなど、全く英語を知らないという子ではない感じだ。それと、開催日の時期的なものもあるのかも知れない。次回、11月に開催するが、どういう比率になるだろうか。
<p>東條委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会化していくスピードが女子の方が早いので、女子の方が早く関心を持つのかも知れない。
<p>委員長 次世代育成担当課長 教育長 次世代育成担当課長 渡辺委員 次世代育成担当課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ チャレンジハートキャンプの男女比はどうだったか。 ○ 各学年男女1名6人組で10班なので、男女比は同じにしている。 ○ 応募はどうだったのか。 ○ 応募は男女ほぼ同数であった。 ○ 1週間サバイバル体験みたいなことをするのか。 ○ 前半は少年自然の家、途中、少年自然の家からB&Gまで歩いて行き、後半はB&Gで過ごす。
<p>渡辺委員 教育長 渡辺委員 次世代育成担当課長 教育長 曾田委員 生涯学習課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体力的なものもあるから、男の子が多いのかも知れない。 ○ 子どもたちが皆で助けあって、グループごとに7～8時間かけて歩く。 ○ くれぐれも熱中症には気を付けてほしい。 ○ それは細心の注意を払っている。 ○ 感想を聞いてみると、来年も参加したいという子は多い。 ○ 家族ふれあいフェスティバルについて、内容と参加者の内訳を教えてほしい。 ○ 岡山市連合婦人会と少年自然の家と教育委員会が共催で行っている。家族で体験活動、触れ合いをしてもらう。全体の総数のみで、参加者の内訳はわからないが、保護者、夫婦もしくは父母のどちらかが子ども何人かを連れてきている。
<p>曾田委員 生涯学習課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 就学前か小学生が多いのか。 ○ 紙飛行機作りやクラフト体験、しおり作りなどができる。小学校の高学年は少ない。就学前の子ども、低学年以下が中心となっている。
<p>曾田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ こうした行事に参加する家庭は、家庭の教育力がある家庭だという感じはする。先ほどの提言の中で良いと思ったのは、民生委員、児童委員の存在が書かれていることだ。婦人会とも大きな重なりがあるだろう。例えば、今回のように3,500人も参加するようなこうしたイベントで、民生委員などがブースを出したり、相談コーナーを設けるなど、提言を実際に実行する際に活用した

<p>教育長 曾田委員</p>	<p>ら、啓発もできるだろうし、良いと思う。せっかく、岡山は愛育委員の発祥の地なので。</p> <p>提言の中で、学校との連携がうまくできていないということが記載されていたが、地域協働学校などで連合内会だけではなく、民生委員などが委員に入っていることは多いのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 団体の長のような方は入っていると思うが。 ○ 学区によっては、民生委員の会に毎回・毎月、学校長や教頭が行く。すると、自然に不登校や虐待などの情報が早めに情報交換できる。家庭の教育力や地域の応援ということにリンクすれば良いのではないか。事業報告の中の、多くの人が集まるイベントなども提言の実行に生かせればよいと思う。
---------------------	--

<p>7 議事の概要</p>	
<p>委員長 委員長 委員長 全委員 委員長 全委員 委員長 委員長 全委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 9月定例岡山市教育委員会を開催する。 ○ 本日の傍聴希望者はいない。 ○ 日程第1，会期は本日1日限りとしてよいか。 <承認> ○ 日程第2，8月定例会の議事録に問題はないか。 <承認> ○ 日程第3，教育長等の報告，事業報告について質問はないか。 (会議録6「教育長等の報告」に記載) ○ 議事に入る前に会議の公開・非公開について諮る。日程第4の報告第10号は、任免，賞罰等職員の身分取扱いその他人事に関する事項として会議規則第9条第1項第1号に該当，日程第5の第30号議案は，附属機関等の委員の任免に関する事項として会議規則第9条第1項第2号に該当するため，非公開としてよいか。 <承認>

<p>傍聴の状況</p>		
<p>報 一</p>	<p>道 般</p>	<p>0名 0名</p>

平成25年9月 岡山市教育委員会定例会（非公開） 会議録

1 開催日	平成25年9月24日（火）		
2 開会及び閉会	開 会	14時54分	
	閉 会	15時22分	
3 出席委員	委 員 長	塩 田 澄 子	
	委 員	曾 田 佳 代 子	
	委 員	東 條 光 彦	
	委 員	渡 辺 勝 志	
	委員（教育長）	山 脇 健	
4 会議出席者			
職 名	氏 名	職 名	氏 名
教育次長	橋 本 拓 治	教育次長	渡 辺 和 夫
統括審議監	佐々木 辰 昭	審議監（学校教育担当）	天 野 和 弘
審議監（生涯学習担当）	直 本 正 明	学事課長	三 宅 泰 司
生涯学習課長	丸 川 康 一	事務局（教育企画総務課課長補佐）	高 木 宏
5 議題及び結果			
報告第10号 専決処理の報告〔岡山市立学校の県費負担教職員の人事について〕			承 認
第30号議案 岡山市社会教育委員の委嘱について			原案可決